



げんざい 現在、オーストラリアのメルボルンに暮らしている



もと へんしゅうちょう お ごう とど びとこま元編集長、小河けいがお届けします!

「これを見るために日本へ!」  
藤沢レオ Still Living 立体、絵、空間など作品  
「様々で、明かりや音も全部が物語?」  
「それを放する。場の彫刻、不狂の森、柱の研究... 作品名だけでも「なんのこと?」  
「どーいうか」と頭の中で考えか  
ぐるぐる回る。そんな  
ぐるぐる考えをどこかで  
レオさんが見ている気がした。

「Hi!! テレビ見た? 大坂なおみ選手がメルボルンで女子テニス世界1になったね! 自分がプレーしたわけでもないのに「すごいぞ!」って気持ち。なおみ選手は、笑顔と対戦相手への気遣いなどから「チャーミング」とオーストラリアでも人気。それもうれしい!! そんなおごちゃん...」  
「行ってきます!!」

「メルボルンの国立美術館では...」  
「エッシャー-X NENDO」二つの世界の間にエッシャーはオランダの画家。鳥の群れが少しずつ変化し、鳥の群れになる。階段を上ってはずが下りる。そんなフジギな絵で有名。NENDOは佐藤ナオキを中心とする建築やインテリアのデザインオフィス。子どものころ教科書でも見ただし絵作家と若いデザイナーが堂々と名前を並べた展示会は、エッシャーの版画やデッサン50点以上をNENDOが手掛けた展示空間で楽しめるというもの。エッシャー作品によく出でくる「家の形」を生かしたNENDOによる空間は、光とかが家の形をつくり、並んだ家々の間を歩いていくと家の中になる部屋があったり。あまりに有名で誰が見ても面白い版画やデッサン。それに負けられない印象深い展示空間。「どうだ!! 日本へ、すごいだろ!!」って気になった。

### 編集後記

2018年度は24号、号外、そして今号の発行ができました。少ない人数でしたが、記事の量はいつもと引けを取らないほどの数を書き上げ、取材へ向かう熱心さにこちらでも背筋が伸びる思いでした。

今年度は色々な取り組みができました。例年行っている野外彫刻の取材を保護者の皆さんとも一緒に散策したり、私の個展では一緒に作品をつくったり、号外をつくったり、記録映像のお手伝いまでしてもらいました。それというのもやはり記者たちの熱心さが、より多くの体験を引き寄せたと感じます。

作品をまっすぐ見る。違うところから見る。お話を聞いてから見る。その眼差しが素直に記事やイラストに表れていますので、ぜひゆっくり読んでほしい25号になりました。(藤沢 レオ)

## びとこま

第25号(2019年2月発行)

【執筆】子ども広報部「びとこま」(阿部多香子、小川さくら、小山鈴乃、深澤乃愛、綿貫里咲、苦小牧市美術博物館、NPO 法人樽前 arty プラス)

【イラスト】子ども広報部「びとこま」、藤沢レオ・小河けい(NPO 法人樽前 arty プラス)

【紙面デザイン】堀米和克(NPO 法人樽前 arty プラス)

【編集】苦小牧市美術博物館、NPO 法人樽前 arty プラス

【発行】苦小牧市美術博物館(苦小牧市末広町3丁目9-7)

苦小牧市美術博物館の魅力を伝える

# びとこま

第25号

NO.25

## 「びとこま」野外彫刻調査 2018

や がいちょうこくちょう さ  
とまこまいしな い 苦小牧市内には、たくさんの野外彫刻があります。毎年こう例の「びとこま」  
や がいちょうこくちょう さ ことし とまこまいえきまえ えきまえどお 野外彫刻調査! 今年、苦小牧駅前や駅前通りを調査しました。

おなじポーズをしてみたら、難しいです。虹を見ている様子が表れている。

(綿貫里咲)

あさいけんいち 《虹》  
①浅井憲一  
[ブロンズ、2001年12月]



みどころは、虹を見上げているところ。

(小山鈴乃)

こわれやすいのかな？スティックに2か所<sup>しよ</sup>ひびが入っている。スケートリンクが銅<sup>どう</sup>で再現<sup>さいげん</sup>されている。(綿貫里咲)

みどころは、銅<sup>どう</sup>が多く、赤<sup>あか</sup>っぽいところ。(小山鈴乃)



おがわこうぞう かがやき  
②小川幸造 《輝》  
[ブロンズ、1997年12月3日]

ほんだめいじ ははこ  
⑥本田明二 《母と子》  
[ブロンズ、1987年10月20日]



道具<sup>どうぐ</sup>のあとがついていて、手作り<sup>てづく</sup>感がでている。(綿貫里咲)

みどころは、ちいさな目<sup>め</sup>があるところ。(小山鈴乃)

すべて手作業<sup>てきぎょう</sup>。だからこの温かさ<sup>あたたか</sup>、ぬくもり<sup>ぬくもり</sup>を感じる<sup>かん</sup>。(小川さくら)



手の指<sup>て ゆび</sup>は、つめまで再現<sup>さいげん</sup>されている。作者<sup>さくしゃ</sup>の指<sup>ゆび</sup>の形<sup>かたち</sup>がのこっている。(綿貫里咲)

みどころは、頭<sup>あたま</sup>のとがり。(小山鈴乃)

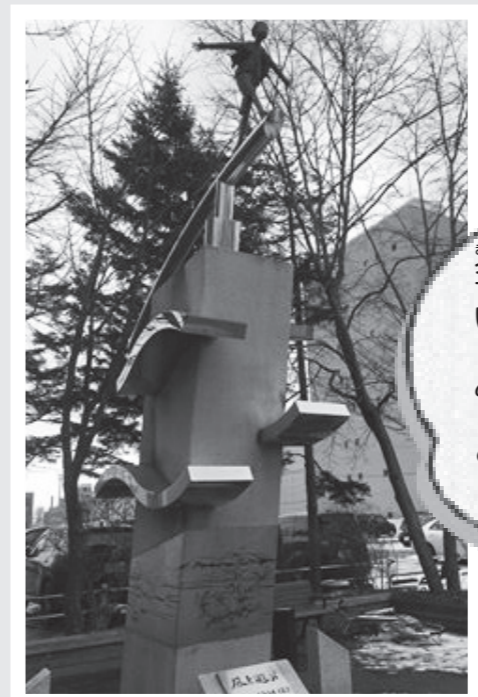
おがわこうぞう まい  
④小川幸造 《舞》  
[ブロンズ]



おがわこうぞう かげ  
③小川幸造 《風》  
[ブロンズ]

きれいなポーズが再現<sup>さいげん</sup>されている。(綿貫里咲)

あな 同じポーズ<sup>おなじポーズ</sup>をしてみたら、むずかしかったです。(阿部多香子)



すがわらよしのり かげ あそ  
⑦菅原義則 《風と遊ぶ》  
[銅板、1944年2月3日]

金属<sup>きんぞく</sup>が曲<sup>ま</sup>がっている板<sup>いた</sup>があることで、風<sup>かぜ</sup>がふいていることがわかる。(綿貫里咲)

みどころは、上<sup>うへ</sup>に立<sup>た</sup>っている男<sup>おとこ</sup>の子。(小山鈴乃)

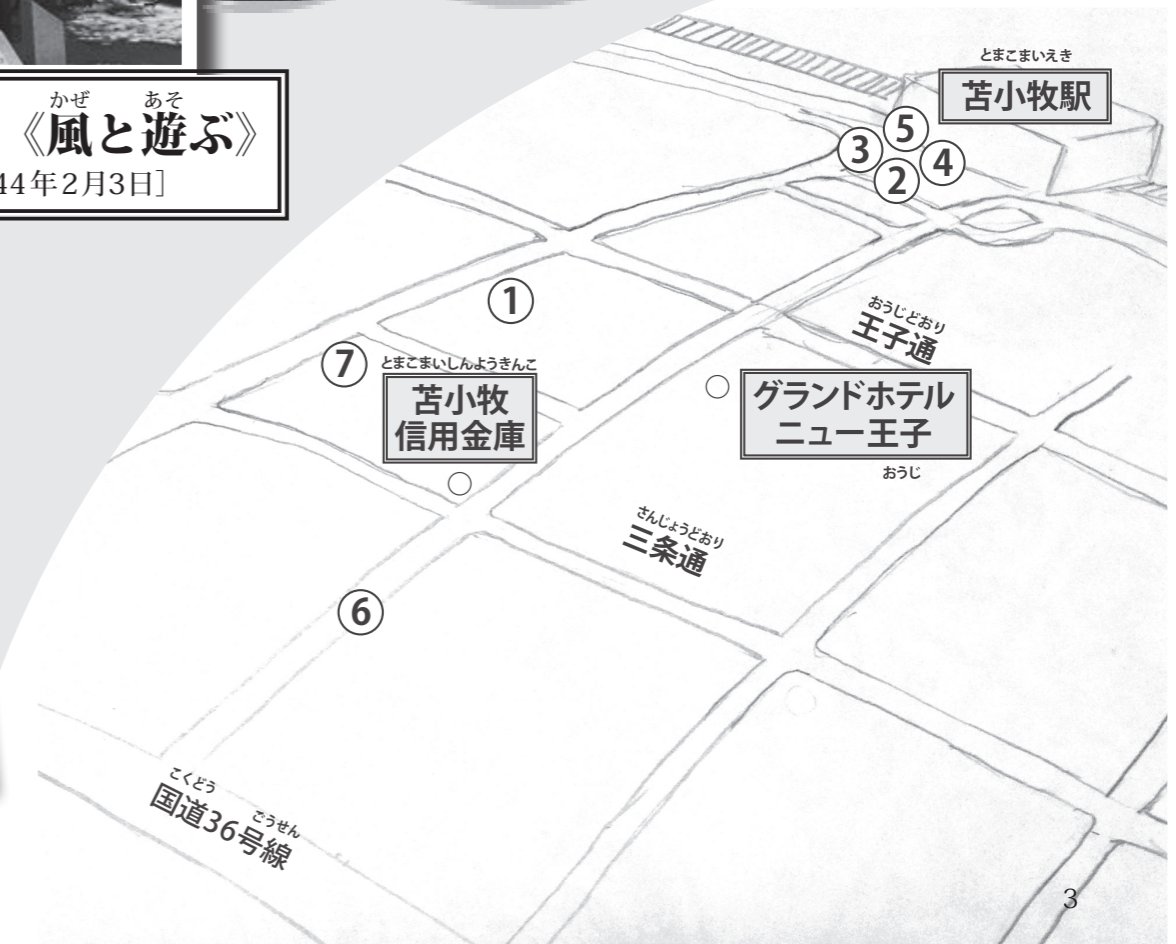
どろぼう<sup>ひと</sup>っぽい人<sup>た</sup>が立<sup>い</sup>っている。色<sup>いろ</sup>んなストーリー<sup>ストーリー</sup>が考え<sup>かんが</sup>られる作品<sup>さくひん</sup>。(小川さくら)



うら 裏<sup>うら</sup>をみると、像<sup>ぞう</sup>の上側<sup>うへがわ</sup>にいろいろかいてある。(綿貫里咲)

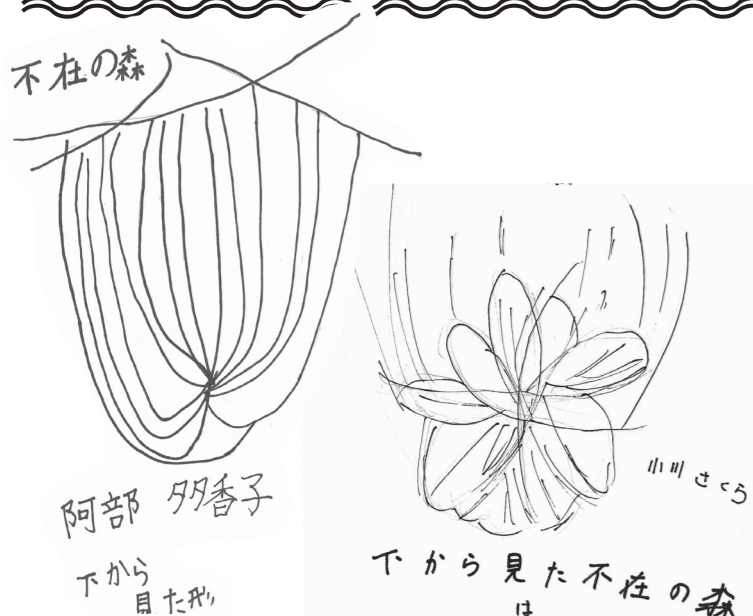
しな 市内<sup>しや</sup>の5か所<sup>あな</sup>に同じ彫刻<sup>ちようこく</sup>があるらしい。(阿部多香子)

ほんごうしん みどり わ  
⑤本郷新 《緑の環》  
[ブロンズ、1974年]



きかくてん 企画展 「藤沢レオ -Still Living」

▶ 2018年10月6日(土) ~ 12月2日(日)



ふざい もり 【不在の森】

レオさんの作品で、私が一番好きなのは「不在の森」だ。それは、ピンク色の糸を集めて、種のような形をした物をぶら下げた、面白い作品だ。その場は暗く、服などが光る。青い光はまるで星が光っているようだ。見ていた人は、「昔、海で泳いだことがあります。そのときのクラゲのような感じです。とても不思議です。」と話していた。記者として活動している山田さんは、「不思議の国に来たいです。現実じゃないみたいですよ。」と笑顔で話した。(綿貫里咲)

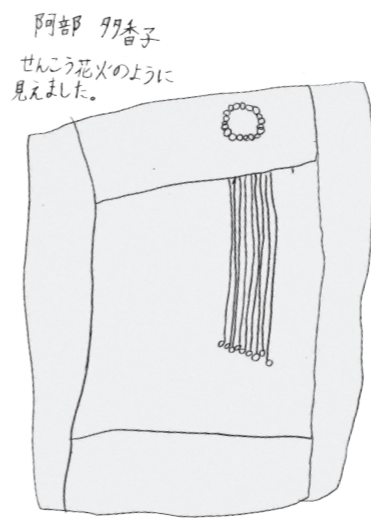
不在の森は、いろいろなたかさがありました。(阿部多香子)



【ぴったりはまることを想像】

美術館の入り口の近くに、金色の《場の彫刻Ⅶ》という作品がある。その後ろには、ピンクと青の作品がある。その青い部分が《場の彫刻Ⅶ》のへこんでいるところにはまるように想像して作っている。

(綿貫里咲)



「今はいつ？」

【つながるストーリー】

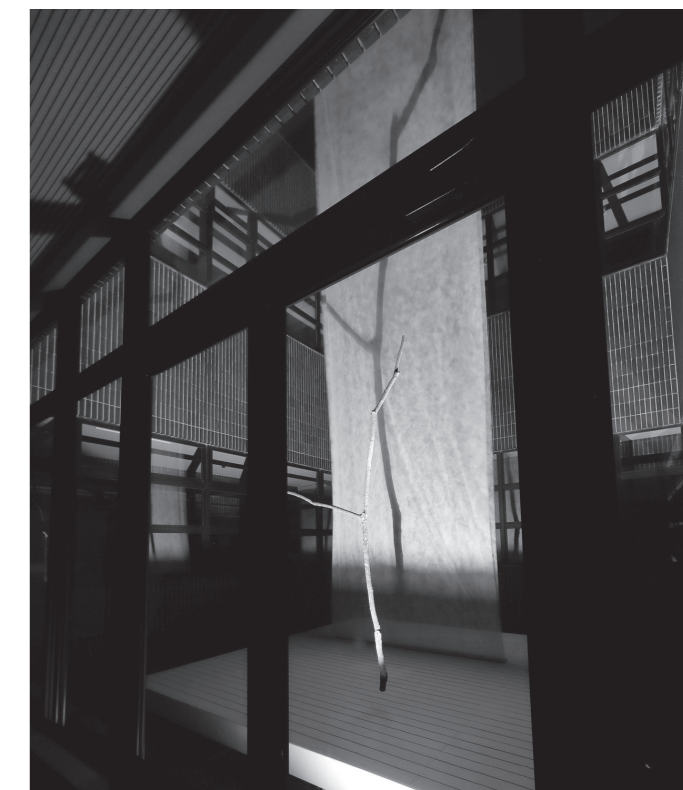
作品の前に置いてある、レオさんが原作を書いているお話がある。1と2がちがう場所にある。それを順に読むと、ストーリーがつながる。

(綿貫里咲)



サイド ストーリー オブ スティル リビング side story of still Living

ふじさわ 藤沢レオ Still Living after 柱の研究 ~ 2019年3月3日(日)



この作品は、中庭にやねをつけてライトをあてて、かげをうつしだす作品で、木のえだのかげは、とてもふしぎでももしろかったです。

(阿部多香子)

きかくてん 企画展 「藤沢レオ -Still Living」 にこめられた思い

Q この企画のテーマは？

A 生きることです。

Q どうしてこのテーマにしたのですか？

A ずっと取り組んでいるんです。それで、それをまとめるために展示しました。

Q おすすめの作品は？

A 《場の彫刻(大柱)》ですね。小さい木を組み合わせると大きな変化があると思うんです。

● 藤沢レオ プロフィール ●

「びとこまでもおなじみの藤沢レオさん(1974~)は、苫小牧市在住の金属工芸家・彫刻家です。鉄を主な素材として、「生と死をテーマとする彫刻作品をはじめ、看板、椅子、テーブルなどの工芸作品を制作。同時にNPO法人樽前artyプラスの一員として、樽前地区での美術展やワークショップなどの活動にも積極的に取り組んでいます。2017年には、「樽前artyプラス」として北海道文化奨励賞、作家として苫小牧市文化奨励賞を受賞。翌年、その記念の意味もこめて美術博物館で企画展「藤沢レオ - Still Living」が開催されました。中庭展示と屋外に展示された大型の2作品は、3月3日まで展示されています。(主任学芸員 細矢久人)

この企画展は、私たちびとこまの編集長「藤沢レオ」の不思議な世界観を描くような企画展です。レオさんに取材してみました。(インタビュー・記事：小川さくら)

Q 私の気になった《不在の森》は、どうして暗くしたんですか？

A 暗い森、洞くつにしたくて、最初から青い光を使いたかったんです。それで、ブラックライトがぴったりだったのでブラックライトにしました。まず、きれいですよね。

レオさんは、こんなことを考えていたのー?!とびっくりしてしまいました。そして、これからもびとこまのことをよろしくお願ひします。



企画展「**美々鹿肉缶詰工場展** ~よみがえるまぼろしの工場~」

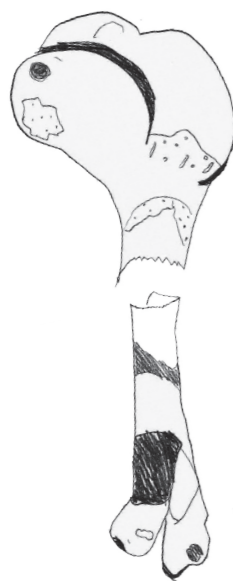
▶ 2018年12月15日(土) ~ 2019年3月3日(日)



**美々鹿肉缶詰工場展について**

今回の展示は、いまから140年前に苦小牧にあった缶詰工場の歴史を紹介しています。工場ではエゾシカ肉の缶詰を作って、外国へ輸出しようとがんばるのですが…エゾシカが減ったために2年ほどで缶詰づくりは終わってしまいます。なぞが多い工場のこと、昔から今に続く人とエゾシカとのつながりを学んでもらえるとうれい입니다。(学芸員 佐藤麻莉)

大腿骨



ほねは、ねじっておろされていたのだそうです。  
阿部 阿香子

**美々鹿肉缶詰工場のなぞ**

美々鹿肉缶詰工場跡からは、エゾシカの骨が出土しました。ですが、発掘された大半の骨は脚の部分であり、頭やどう体などはほとんど見つからないのです。それではその頭と体はどこにあるのでしょうか？足だけを運んできたのでは？と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、それは効率が悪いし、鹿がとれるから美々に工場をつくらうということになりました。それなのにわざわざ遠くからもってくるのは考えにくいでしょう。またなぞは深まるばかり…。今もなぞはとけていません。なぞをとく人は現れるのでしょうか。

(小川さくら)

140年ほど前、苦小牧で最初の缶詰工場ができた。当時缶詰は高級なため、海外向けにつくられた。苦小牧には大昔からシカが多く生息していた。そのため、工場がつくられた。

**シカを何に使う？**

シカは、毛皮を使って防寒具にしたり、骨や角を使ってストラップにしたりして使っていた。

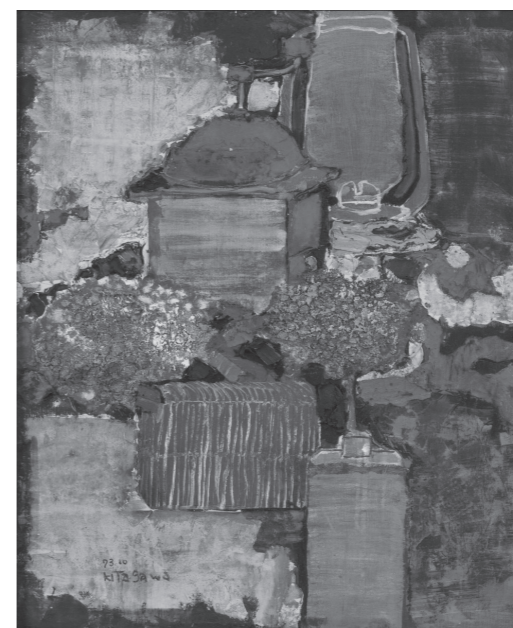
**毛皮の手ざわり**

白い毛はやわらかい。茶色い毛はかたい。黒い毛はサラサラしている。

(綿貫里咲)

特集展示「**北川豊の静物画**—生命充ちるところ—」

▶ 2018年12月8日(土) ~ 2019年3月3日(日)



**北川豊とは**

北川豊は、1948年に旧・苦小牧町で生まれ、1982年に34歳で亡くなった洋画家だ。コーヒーとドライフラワーが好きで、コーヒーミルやかれた花を描いていた。わざと絵の具を固めて立体的にしていた。(綿貫里咲)

**展覧会のみどころについて**

北川豊は、1948年に苦小牧に生まれた画家です。19歳のときに油彩教室に参加して以来、制作にのめりこんでいきました。油絵をはじめてわずか3年で大きな公募展で入選するなど、その才能を開花させ、将来を期待されましたが、34歳で病気により亡くなってしまいました。油絵の具の研究に熱心で、いろいろな描き方や色や質感の実験を繰り返しており、その様子は残された作品からもみえてきます。

(学芸員 福田絵梨子)

**北川豊さんと比較！好きなこと・ものは？**  
(企画：小川さくら)



**北川 豊さん**

- ・コーヒー
- ・ハスの花のドライフラワー
- ・絵を描くこと



**小川さん**

- ・服
- ・習字
- ・ピアノ



**阿部さん**

- ・絵を描くこと
- ・マスキングテープ
- ・スクイーズ



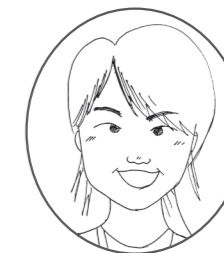
**綿貫さん**

- ・スクイーズ
- ・百人一首



**藤沢さん**

- ・料理
- ・旅行
- ・読書



**福田さん**

- ・映画
- ・お出かけ
- ・ショッピング

イラスト／藤沢レオ